

六甲カトリック教会報

2006.5 No.413

5月のお知らせ

	教会暦	教会行事
2	火 聖アタナシオ司教教会博士	
3	水 聖フィリポ聖ヤコブ使徒	
5	金	初金 7:00 10:00 ミサ
6	土	9:30 教会大掃除
7	日 復活節第4主日 世界召命祈願の日	
14	日 復活節第5主日	10:15 小教区評議会
15	月	14:00 三日月会 ミサと例会
18	木	14:00 ベタニアの集い
21	日 復活節第6主日 世界広報の日	14:00 結婚準備セミナー開始(6/11まで) 9:00ミサ後、教会学校の遠足
22	月	11:00 ベビーとママの集い
26	金 聖フィリポ・ネリ司祭	
28	日 主の昇天	
31	水 聖母の訪問	マリア祭 7:00 10:00 ミサとロザリオの祈り

マリア様の生き方

ほぼ毎朝、毎夕、六甲教会鐘楼のマリア像の前で、しばしただずむ方々の姿をおみかけします。性別・年齢を問わず、通勤、通学、また散歩の途中、そっと立ち寄っていかれます。教会でおみかけしませんので、洗礼を受けておられない方々のようです。1日の始めに、また1日の終わりに、ふと安らぎをおぼえることのできる場所になっているのでしょうか。自然に足が向くといったふうに、ご像の前に寄っていかれるのです。自ずと前にたたずみたくなるような、マリア様のあふれる優しさが、人々をひきつけているのではないのでしょうか。

一人のふつうの女性であったマリア様は、ある日突然、神の母として選ばれます。みなさん、想像してみてください。突然自分の目の前に神の遣いがあらわれ、「あなたは神の子をみごもる」と伝えられたら、と。受胎告知の場面を表

わした絵画には、必ず祈りの姿で、へりくだった様子のマリア様の姿が描かれています。

マリア様は一体どのような女性だったのでしょうか。日々、神に祈り、いつも謙遜な態度で、つねに神に開かれた心をもった方であったことでしょうか。いつでも「受け入れる」ことのできる、余裕をもった柔軟な心で生活しておられたに違いありません。だからこそ、突然のお告げを静かに受けとめることができたのです。その後、幼子の神殿奉献のおり、シメオンのことばを聞き(ルカ2:34-35)我が子のたどる運命、自分の味わう苦悩を悟りながらも、沈黙のうちに過ごされていく姿には、マリア様のやさしく豊かな心のみならず、正しい意志をもった、強い信仰をみることができます。マリア様の生き方は、わたしたち信者の鑑であり、模範です。

自分を失いがちの、自己中心的な毎日、特に

4月から入学、入社など新しい生活に入り、日々のことに追われて来た一ヶ月を終え、マリア様に捧げる月である5月は、「わたしは主のはしのためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ1:38)このマリア様の態度を思

い出し、マリア様の姿を通して神さまに近づきましょう。

God bless you.

祈りのうちに。

バレンタイン・デ・スーザS.J.

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

4月度例会が4月2日(日)10時15分から開かれました。この日は「信徒奉仕職」の勉強会と称して、冊子・「みんなで担う信徒奉仕職」(カトリック大阪司教区信徒奉仕職研究チーム編)を要約抜粋したものをテキストとして使い、それを輪読して質疑応答する、というかたちをとりました。桜井神父からは、現在おかれている日本のカトリック教会の現状が赤裸々に語られ、信徒の活躍する場面が一層広がるとの認識をあらたにしました。六甲教会としては信者数、人材の豊富さなどから、信徒奉仕職の現状はまあ満足すべきものと言えるが、さらにその奉仕職はひとかたまりの人たちだけでなく、さらなる拡がり求めて行かなければならないとの意見で一致しました。同時に教区としても司祭の絶対的不足という問題を、信徒に頼るだけでなくしっかりと見据えて対策を講じて欲しいという意見も出されました。そのあと教会親睦会の協力要請や、聖堂掃除当番の問題を婦人会会長の出席を得て討議しました。(詫)

👉 婦人会

今年の遠足

6月9日(金)彦根教会～長浜散策に決まりました。申し込みは4/30, 5/7, 5/14の各ミサの後です。詳細はチラシをご覧ください。

*介護同伴者につきましては、婦人会役員までおたずねください。

今月の聖堂掃除当番

5日(金) 東4・5
12日(金) 西1・2
19日(金) 西3・4・5

26日(金) 中1・2
いずれも午前9時からです。

👉 三日月会

5/15(月)14:00～ ミサ後例会

👉 青年会

< 定例会 >

5/14(日)12:30～14:00 第3会議室

内容:福音書を輪読して分かち合い

5/28(日)12:30～14:00 第3会議室

内容:福音書を輪読して分かち合い

初めての方も是非お気軽にご参加下さい!

👉 教会学校

6日(土) 通常クラス

13日(土) 通常クラス

14日(日) 子どもと共に捧げるミサ(9:00～)

20日(土) 通常クラス

21日(日) 遠足

27日(土) ホールミサ

👉 社会活動部

・今月の社会活動部連絡会は、お休みさせていただきます。次回は6月2日(金)初金のミサ後に始めますので宜しくお願い致します。

・手芸の集いも連休中の為、今月はお休みと致します。お間違えのない様にご注意下さい。

👉 地区会

5/27(土) 伯母野山地区集会

(六甲学院修道院にて)

梶山神父のミサと懇談

【養成部からのお知らせ】

大阪教区主催生涯養成コース

5 / 3 (水) 15 時 ~ 5 / 5 (金) (昼食後解散)
場所 : 売布祈りの森および宝塚瞑想の家にて
テーマ : 「新しい福音宣教」に取り組む
参加費 : 16,000 円

第一回祈りの道場

6 / 3 (土) 10 時 ~ 15 時 (15 時よりミサ)
場所 : ザビエルハウスにて
指導 : 英 隆 一朗 神父様
参加費 : 6 0 0 円
定 員 : 先着 3 0 名。参加希望の方は申込みの箱を設置しますので、5 月 2 8 日までにお申込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。

【社会活動部からのお知らせ】

5 / 13 (土) 9 : 30 ~ 炊き出し

教会台所で準備し、用意出来次第、小野浜公園に移動します。ご協力を宜しくお願い致します。

5 / 18 (木) 14 : 00 ~ ベタニアの集い

聖体拝領式と懇親。追って御案内をさせていただきます。新たに参加をご希望されます方は、前もってお申し出ください。ご案内状を送らせて頂きます。

5 / 21 (日) 10 : 00 ~ 手作りコーナー

イグナチオホールにて、お弁当他手作り品の販売を致します。ミサの後、是非のぞいてみてください。ご協力をお願い致します。

5 / 26 (金) 14 : 00 ~ おにぎり作り

教会台所に於いて、須磨方面夜回り支援の為に作ります。ご協力を宜しくお願い致します。

大阪教区障害者デスク [フレンドリー] の共に捧げるミサ

5 / 14 (日) 10 : 30 ~ 垂水教会、5 / 28 (日) 9 : 30 ~ 岸和田教会にて、それぞれ捧げられます。

大阪教区 [国際協力の日] の集い

5 / 21 (日) ミサ 11 : 00 ~ 交流会 12 : 30 ~
於 : カテドラル
国際色豊かな、楽しいフェスティバルのようです。お時間のある方、参加なさって見ませんか。

~~~~~

## 「わたしは信じます」そして「わたしたちは信じます」

「わたしは信じます」と宣言して、洗礼を受けます。しかし、わたしたちは孤独なまま捨て置かれません。教会が、そして教会共同体がわたしたちを支えてくださいます。わたしたちは典礼のなかで、声を合わせて祈り、歌うことで、「わたしたちは信じます」と宣言します。これはカトリック教徒として大きな慰めだと思えます。こんなことを第3回目で勉強しました。

「カトリック教会のカテキズムを読む会」は、毎月第一日曜の9時のミサ後、開催しています。文字通り皆さんで読んでいます。ご都合がついたときに、お気軽に、ご参加ください。  
( 桐原 )

聖なる過越の三日間  
～ 聖木曜日～復活徹夜祭 ～

【足を洗っていただく】

洗足していただいている時、間近で足を洗う神父さんの姿をじっと見つめ、足を洗う姿から『仕える』とは何か考え、そして受難に向かうイエス・キリストを思い巡らしていました。神父さんが足を洗われる姿にイエス・キリストを感じることが出来て、嬉しく思います。

年を重ね、人生を歩くことによって『仕える』ことが何かを理解し、人に仕える者となることが出来ますように。

久保



<洗足式>

【受洗の喜び】

本日、主のご復活の日に洗礼を授かりました。皆様方のお仲間に入れて頂けて喜び一杯です。

「感謝と祈り」週に一度でいいから静かに反省の時間をもちたい。「宗教が欲しい」。この願いから家内に誘われて教会に通い始めました。

いま願いが叶えられたことを心から嬉しく思っています。2006年4月15日は、私の新しい誕生日です。これからは教会共同体の一員として、皆様のご指導を頂きながら信仰の道を歩んでまいりたいと念じています。どうぞ宜しくお導き下さい。お願い致します。感謝と喜びをもって。

パウロ 林



<洗礼>



<ろうそくの授与>

私は子供の頃、六甲教会の前を通る度に誰か誘ってくれないかなー。ステンドグラスは綺麗だろうな覗いてみたいなー。と憧れていました。その後数十年経て4 / 1 5 洗礼名頂けたのは、時満ちて神様が『おいで』と導いて下さったと信じます。最初に出会った黒澤さんに代母を依頼。シスター出口の勉強会でお仲間に支えられ、桜井神父様にはユーモア溢れる解答頂き、安心して復活徹夜祭に臨みました。沢山の方々から「おめでとう」と祝って頂き幸せな嬉しい体験でした。今後に生かせるよう努力します。

モニカ 福留

洗礼式の時は緊張していて、いつの間にか終わっていた という感じです。でも、時間が経つにつれ、じんわりと胸の中にもう嬉しい気持ちが広がってきています。こんな喜びがあるなんて、今まで知りませんでした。人と、こんなふうにつながっていけるということも。本当によかったなぁと思います。ここに至るまでの色々な出会いに感謝したい気持ちでいっぱいです。

新しい自分、新しい世界。どうぞみなさん、これからよろしくお願いします。

マリア・ピエラ 田中



<復活徹夜祭での受洗者のみなさま(最前列)>



<復活徹夜祭>

## 聖体奉仕者黙想会に参加して

2006年4月1日、この日、私の信仰の姿をありのままに、目の前に突きつけられたような気がしました。

信徒が聖体奉仕をさせていただくようになってから、人選や、やり方や、色々な面で変遷しながら、今日まで来たような気がします。私も最初は、先唱者がするようにということで、深く考えないままに勤めておりました。もともと私は、深い考え無しに物事を始めて、あとから理解や、自覚がついてくるといふタイプなのですが、聖体奉仕についても、恐ろしいことに、いとも軽い気持ちで始めてしまいました。そして今回の黙想会で、ことの重大さに身の縮む思いをしたという訳なのです。

聖体は、英語ではHoly Communionです。自分はどこまで共同体の意識を持っているか。一致の力になっているか。一人一人の生活の中から来て、聖なる共同体となり、そしてまた戻って行く・・恵みを運ぶものとなって・・いるだろうか。この日、最初から投げ掛けられた問いでした。

日々、信仰心を持って、弱くても良い、心の中に神の恵みをしっかりとしみ込ませて、神の道具となる。それが、私たちが目指さなくてはならない姿だと教えていただきました。勿論、聖体奉仕をするかしないかという問題ではなく、信者一人一人の心のあり方だと思います。

本当に、今、世の中は忙しく、やかましく、余裕がありません。でも、心の持ちかたで、自分の中は変えて行くことが出来る、神様にゆだねるという気持ち一つで、変わって行けるのではないかと、この日考えることが出来ました。

ご復活のイエス様を信仰し、共同体の一員としての自覚を忘れないようにしたい、そして、イエス様の、人々に示された深く大きな「愛」を配るという役割の重大さを、いつも思い返しつつ勤めさせていただきたい。そんな思いをしっかりと心に抱いた一日でした。

グループに分かれての分かち合いの中では、奉仕者をさせていただくことによってミサに与る喜びを感じられるようになったとか、ミサにより集中出来るようになったという声が聞かれました。勿論、色々困ったことや、反省点も出てきましたが・・、また、教会の中の奉仕者のあり方についても色々意見が交わされました。(任期、資格、条件など)こうした機会を重ねて行くことによって、より理想的な聖体奉仕者のあり方が見つかるのではないかと思います。

阿部

---

---

## ザビエル生誕500年記念巡礼に参加して

マチスの絵のような明るいステンドグラスが横一杯にひろがり、直線的なデザインの聖堂とマッチしています。外はさんさんと春の陽光、パイプオルガンが高らかにひびきわたりました。2006年4月7日、今から丁度500年前のこの日にザビエルは誕生したのです。きょうのミサの司式は田丸神父様、少しの期間でしたが6年前に六甲教会にも居られた懐かしい神父様です。入祭と閉祭の歌はザビエル賛歌、配られた「ほざんな」という歌集で初めて歌う歌でしたが一生懸命歌いました。山口教会のみなさ



んとご一緒にお祝いのミサに与れて最高の喜びです。ミサが終ってからは心づくしのお菓子とお抹茶でもてなして下さいました。バスの出発を少し遅らせて歓談のときを過ごし、次の目的地津和野へ向かいました。津和野では乙女峠のマリア聖堂でシスターのお話を聞き、三尺牢や水責めの池なども見学しました。津和野教会でも米国から日本に帰化された木村神父様（六甲学院にも在籍された）のお話を聞く機会を得ました。二日間の短い日程でしたが安芸神父、バ

レンタイン神父ともども22人の巡礼参加者は湯田温泉のお風呂にゆっくりつかり、歌も出て和気あいあいの夕食、また行くところ行くところ満開の桜のもとで山口の名所旧蹟を巡り、楽しい巡礼の旅をすることができました。巡礼ツアーの募集当初の段階では参加者が少なく心配されましたが、ふたを開ければ大成功。なつかしい人、新しい人、さまざまな人との出逢いかもしたされ、神さまのお恵みを本当に実感した有意義な旅でした。 訃

~~~~~

【シスター松本のご挨拶】

ありがとう みなさま

六甲教会の藤棚も美しい花で飾られる好季節、皆様は主の復活のいのちの喜びを生きておられることと思います。

このたび私は長年の六甲での勤めを終えて、神戸を離れることとなりました。修道生活最初の任地であり、6年間のブランクを除き、通算31年間を皆様とともに過ごした地を去ることは寂しいことですが、神戸在任中には六甲教会の神父様はじめ信徒の皆様を支えられ、育てていただき、暖かい友情を示してくださった皆様に深く感謝いたします。愛する子どもたち、子育て真っ最中のお母さま方、惜しみない奉仕をされるリーダーやボランティアのみなさん、高齢や病気の中で祈りをささげてくださる方々、皆様のご厚情を心に刻み、新しい地での任務につきたいと思います。今まで関わったすべての方々、教会と地域の方々のために神様ご自身が働きかけてくださることを信じています。また、人材豊かな六甲教会の皆様が益々力を発揮され、み国の発展のために尽くされますことを希望のうちに確信しております。

今年3月に小百合児童館が50年の歴史に幕を閉じたことによって、援助修道会六甲修道院の様相が大きく変わりました。「児童館のシスター」と呼ばれていた事業体を通しての目に見える奉仕はできませんが、一人一人が固有な使命を生きようとしています。これからは「援助修道会のシスター」または「煉獄援助修道会 レンゴクのシスター」と呼ばれるのでしょうか？

六甲修道院の改築中は4人のシスターが11月ころまで2か所に別れて借り住まいをいたします。六甲修道院への連絡は [TEL078-802-0231](tel:078-802-0231) をお願いいたします。(FAXも同じ番号です。改築終了後はもとのTEL/FAXに戻ります。)改築中は何かとご不便をおかけしますが、よろしく願いいたします。修道院の連絡係はシスター出口です。

またお会いできる日を楽しみにしております。お元気でお過ごしくださいませ。

2006年5月
援助修道会六甲修道院
松本卓子

CD紹介

『モーツァルト 戴冠ミサ 八長調 K317
聖ペトロ大聖堂での荘厳ミサ』

ポリドール P O D G 1204

図書室では、皆さんからのご寄贈のお蔭もあって、CDやテープも徐々に充実してきています。そこで今回はその中から1枚をご紹介します。

標記のCDは前教皇ヨハネ・パウロ2世の司式で、ローマの聖ペトロ大聖堂で挙行された荘厳ミサを録音したもので、モーツァルトの曲をカラヤンが指揮し、有名なソプラノのキャスリーン・バトル等が歌っています。オーケストラはウィーン・フィル。

曲名の戴冠式からは華美な音楽を想像しますが、これはモーツァルトが付けた名ではなく、実際は復活祭のためにつくられたか、少なくとも復活祭に初演されたものと、今日では推定されています。モーツァルトの音楽を神学的に考察したH・キュングはこの曲を、礼拝に際しての音楽というより、音楽による礼拝だと讃えています。そのことがこのCDで身に沁みて実感されるのは、これが通常の音楽会での演奏ではなく、荘厳ミサそのものであり、教皇等の典礼のことばが朗々と聞こえてくるからでもあるでしょう。荘厳で敬虔な雰囲気になり、印象深く、心慰められるものがあります。

音楽としては人により好みがあるのは当然ですが、宇野功芳氏(音楽評論家)のように、「何度聴いても飽きることはない。…(中略)…モーツァルトでなければ絶対書けないチャーミングな音楽」等とほれ込んでいる人もあり、同感の思いがします。

前教皇の帰天1周年に当たり、またモーツァルト生誕250年ということから、ご紹介してみました。

(柴田)

上記のミサは1985年6月29日の聖ペトロ・聖パウロの祭日に挙行されています。説教等の部分は省略されており、演奏時間はほぼ60分。このCDを薦めて下さった米田さんに感謝の意を表します。

教会報月6月号の発行は、5月28日(日)です。
編集会議は5月21日(日)です。
記事原稿は、5月14日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会	
〒657-0061	神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話	0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6
発行責任者	桜 井 彦 孝 神 父
編 集	広 報 部